

## 読書の秋、食欲の秋 その2

私の母方の一番上の伯母の娘のいとこの長男は、かつて磐城高校の教え子であり、ラグビー部に所属しておりました。大学は浪人の後、早稲田の商学部合格し、大学卒業後、サラリーマンとして営業活動に尽力していましたが、若くして働きすぎから命を落としてしまいました。長男を亡くしたいとこの悲しみはいかばかりだったかと推察にあまりありません。

このいとこ家の墓地は、湯本から泉に電車で行きますと、馬玉という地域にあり、峠に向かう踏切の山の上にあるのです。

かつて、私の伯母がなくなった時に、納骨するために息を切らしてその山道を登ったことが記憶にあり、きっとそこに、祖父母とともに、その教え子の骨も納骨されたことだと推察できるのです。

教え子がなくなった時には、福島に住んでいましたので、直接私の父と母がその葬儀に出席したことだと記憶します。私は、仕事にかまけており、その葬儀に帰っては来れなかったのを覚えております。

踏切の近くにありますので、毎日何本もの電車がレールを震わして通り過ぎていきます。各駅停車の水戸行きもあれば、いわき行きもあるでしょう。スーパーひたちの上下線も走ります。時には、貨物も長い車両を引きずって、遠い都会を目指すこともあるでしょう。

その地に眠りながら、いとこの子は、遠き昔にあこがれた東京に向かうスーパーひたちの音を聞き分けているのではないのでしょうか。浪人時代も、大学時代も、就職して正月やお盆ごとに乗った列車の音を地中で聞き分け、祖父母と何を話しているのでしょうか。

今、秋の虫たちの音が夜も遅くまで鳴り響き、それでも明け方の静寂の中で、思い返すのは、父と母のことでしょうか。

ままならない身体を持て余して、ベットと台所を行き来する母の姿を見たら、どう思うのでしょうか。母の身体をおもんばかって、あれこれと世話を焼く父の姿を見たら、もう一度この世界によみがえりたいと願うのでしょうか。

いつも冗談ばかり言って周囲を笑わしていたり、その笑顔で仲間をやさしい気持ちにできたりした君の良きところはきっと後輩に引き継がれているのではないかと思います。

楢円のボールをけり、毎日毎日真っ黒になって地べたを這いずり回りながら、培った「One for all, All for one」の本当の意味は、「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」であることは伝わっているのでしょうか。磐城のラグーマンなら大丈夫でしょう。トライという目的のために、全員が他人のミスをフォローし、一つの心になることだということは、間違いなく伝わっています。

このことは、チーム「いわき」の全員が知っています。

國井英敏よ安らかに眠れ。今日もレールを走る列車の音は聞こえているか。

君の母校の磐城高校は、チームとして、目標に向かって間違いなく一つになっていく。ラグビー部の後輩たちも、花園目指してとても頑張っているよ。

